



渡野辺秀雄 議員



録画映像

質問 北斗フィッシュヤリーを今後どのように活用していくのか

市長 漁協と話し合い、観光も含め総合的に考えてまいりたい

問 北斗市における観光振興に関して、新型コロナウイルス感染症の終息がまだ見えない中、国や道府県の自粛規制が解かれ、また、全国旅行支援などの影響なのか、修学旅行や家族単位の観光客がこの頃、目立って増えてきています。一部観光地では、コロナ終息後を見据えてホテルの改装や新築をしているところもあるようです。

最近、新聞を開くと、七飯町の「道の駅なないろ・ななえ」が全道道の駅ランキング1位とか、函館市ではトラウトサーモン「サーモン」として旅行者にアピールして観光振興につなげるなどといった話題が紙面を飾っています。

北斗市も6年前の新幹線開業時には、マスコミに取り上げられ、連日、テレビカメラや芸能人が来て大変盛り上がったのですが、3カ月もすると火が消えるように収まりました。

観光振興の推進は、地域産業の発展や

交流人口が増えることによって、企業の誘致にもつながっていくものと考えます。また、そのことにより、移住・定住人口が増えれば北斗市の活性化の大きな力になるものと思います。

10年後、20年後を見据えた観光振興に対する市長の考えをお聞かせください。

答（市長） 本市では、平成28年3月の北海道新幹線開業を見据え、平成24年度を「観光振興元年」と位置付け、桜回廊事業の促進や体験型観光の振興など5つの観光施策を柱として取り組んできました。観光入り込み者数は、北海道新幹線の

実質的な開業年度である平成28年度に124万人を数えましたが、開業効果の落ち着きやコロナ禍の影響により、令和3年度には52万人にまで減少しています。

このような状況の中、市では、観光施策の主な柱のうち、「体験型観光の振興」への取り組みを強化する必要があるとして、令和2年度から「着地型観光担い手づくり事業」を展開し、観光関連事業者と連携し、市内での体験可能なプログラムを増やし、観光関連事業者が継続的に実施できる事業を目指しています。

これまで市や市観光協会では、体験観光事業に取り組んでおり、地引き網体験やトマト収穫体験など、20を超える事業を実施してきたところですが、観光関連事業者との連携が弱かったことなどが

ら、持続的な事業展開ができなかった経緯があり、これらの反省を踏まえ、「着地型観光担い手づくり事業」では、観光関連事業者との連携を密にし、事業開始から3年度目となる今年の秋には、モニターツアーが複数実施されました。

市内には、数多くの観光資源があり、今後整備が予定されている、文月・向野地区のワイナリーなど、新たな観光資源も含め、それらを生かすため、多様な関連事業者との連携を強化し、地域の方々が価値を見いだすような資源の磨き上げを図ることも重要であると考えています。

新函館北斗駅は、道南観光の要所であり、市観光協会が主体となり、観光関連事業者との連携を深め、来訪者のニーズや価値観に着目し、多くのリピーターやファンが来訪していただけるよう、市としても、引き続き連携を密にし、観光振興の後押しをしてまいりたい。

また、8年後の2030年度には北海道新幹線が札幌まで延伸される予定であり、延伸後は本市が道央圏域と東北圏域の中間駅となることから、これらの特性を最大限に生かした取り組みとして、来訪者を増やすため「豊かで美しい自然環境」や「食」のPRのほか、現在取り組んでいる「体験観光」の充実により、年間90万人の観光入込者数を達成すべく、取り組みを加速する次第です。

問 観光振興には、「食」を目的に来る観光客は多く、1次産業との連携は欠かせませんが、北斗市には、農産物のキュウリやトマト、海産物もカキやホッキなどがあります。

その海産物を提供する「貝焼焼北斗フィッシュヤリー」が、現在、休業していますが、今後の活用をどのように考えているのか教えていただきたい。

答（市長） 市としても北斗フィッシュヤリーには補助金等も出しておりますので、何とか生かして欲しいと所有者である上磯郡漁業協同組合には話しています。

そのような中で商工会と連携した再営業に向けての計画もありますが、漁協から返事をいただいております。今後については、漁協と話し合いをし、観光も含めて総合的に考えてまいりたい。



休業が続いている 貝焼焼北斗フィッシュヤリー